

【講義】 授業づくりの実際

京極町立京極小学校教諭
S.E.N.S特別支援教育士
横田 恭平

この講義は、令和6年度(2024年度)特別支援教育基本セミナーで収録したものです。

本日お伝えしたいこと

- ①はじめに
- ②子どもが感じる困難さ
- ③アセスメントの重要性
- ④京極小学校では
- ⑤指導事例

はじめに

様々なことに困っている児童生徒に…



その子にあった支援・指導を行い



学習や生活など様々な場面で
生き生きと活動できるように



エビデンスに基づいた支援を

勘

3 Kからの脱却

経験

根性

子どもが感じる困難さ

～困難さには背景要因がある～

心理的疑似体験

- ・子どもたちの困難さを追体験するものではありません。
- ・子どもが示す困難さについて、子どもたちが経験する心理状態（焦り、いらだち、不安など）を体験してみましょう。
- ・そして、子どもの立場に立って支援について考えてみましょう。

(LD・ADHD等の心理的疑似体験プログラム 第3版)



図形や漢字の視写

- ・これからスクリーンに図形を映します。
- ・できるだけ**速く正確**に書いてください。
- ・描いている間、**自分がどのように描き写しているか**モニタリングしてみましょう。

話し合い

- ・何回くらいスクリーンを見ましたか？
- ・どこが難しかったですか？

図形や漢字の視写

- 次に漢字を書き写してみましょう。
- 漢字は１０秒間だけスクリーンに映されます。できるだけ**速く正確に**描き写してください。
- また、**どのように写しているのか**、自分をモニタリングしてみてください。

籤

図形や漢字の視写

- 今度は別の漢字を書き写してみましょう。
- 漢字は１０秒間だけスクリーンに映されます。できるだけ**速く正確に**描き写してください。
- また、**どのように写しているのか**、自分をモニタリングしてみてください。

鯰

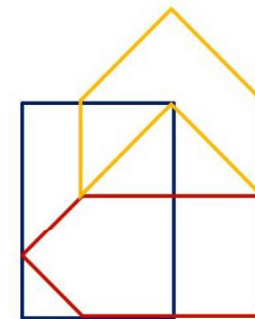
話し合い

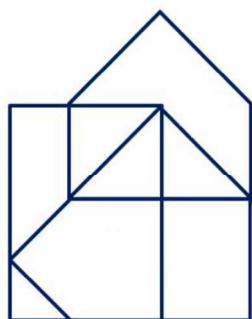
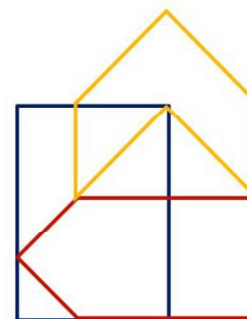
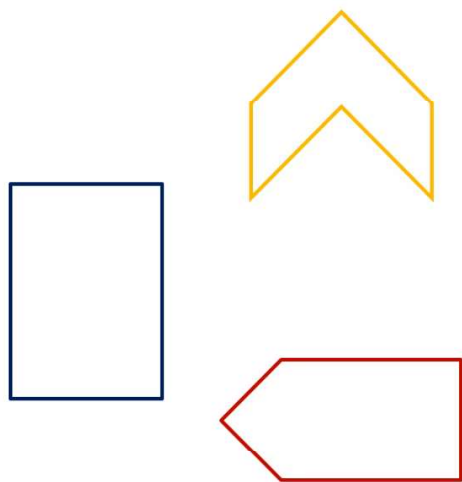
2つの漢字は、提示時間も回数も同じでした。また、どちらも漢字検定1級のもので難易度も同じとされています。

- 書きやすさに違いがありましたか？
- どんな点に違いがありましたか？

配慮事項・支援の手立て

- 複雑な図形も、まとまりよい部分に分けるととらえやすくなります。
- 部分をおぼえてから合わせると書きやすくなります。





- 漢字も同じです。
- 部分に分けてとらえるとよいでしょう。



- また、語呂合わせなどの工夫も子どもによっては有効です。
- 「春」という漢字なら、
「**三**人**で****日**向ぼっこの春」となります。

-
- 意味づけをする方法もあります。
 - 「茶」なら、植物なので「くさかんむり」
そしてお茶は、「家（**へ**）」で飲むと
「ホ」っとする、といった意味づけをします。

漢字をおぼえて書く

- スクリーンに熟語を映します。
 - できるだけ**速く正確に**写してください。
-

印度

亜米利加

- 次の問題です。
- 同じように**速く正確**に書き写してみてください。

波斯

哥木哈牙

話し合い

- 2つの課題ではどんな違いがありましたか？
- 書き写しにくい課題には、どんな援助が必要ですか？

配慮事項・支援の手立て

- 読みが分からない熟語は、ひらがなで書きとめることもできないため、負荷がかかります。
- 板書の後、教師が音読したりふりがなをふっておいたりすることで負荷が軽くなります。

波斯

哥木哈牙

ペルシャ
波斯

コペンハーゲン
哥木哈牙

アセスメントの重要性

アセスメントの重要性

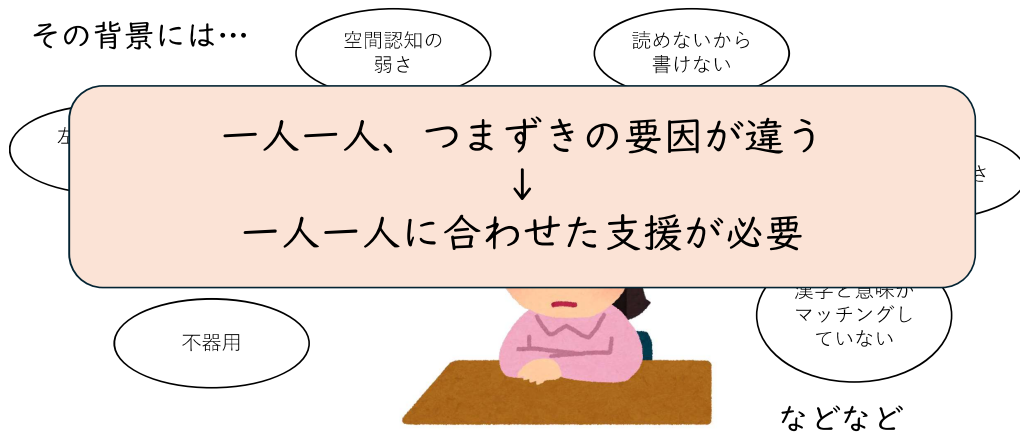
教育

困難さ
つまり
相談
検査等
アセス
メント
指導
支援等

医療

主訴
症状
問診
検査等
診断
治療
投薬等

例えば、漢字が苦手で困っている子…



まずアセスメント

学習や行動のつまずきの背景要因は
頭の中で起きていることなので、
気付きにくい・分かりにくい・共感されにくい

子どもの言動や行動、育ち、環境から
その背景要因を推測していく

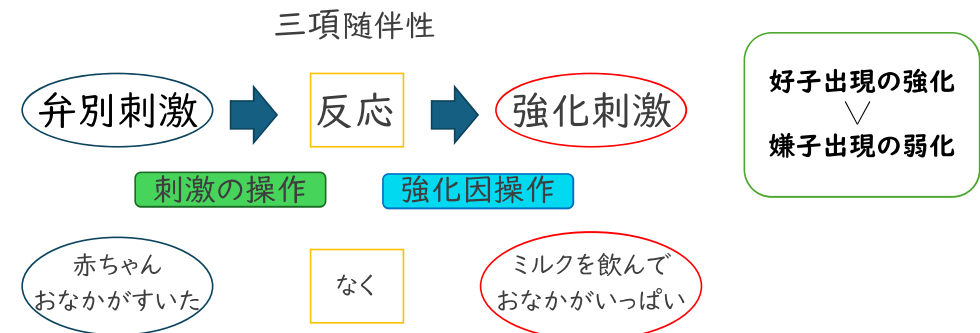
アセスメント

情報収集は多面的に

- A. 主訴（願い・心配・気付き）
- B. 家族の構成・状況
- C. 育ちの様子（生育歴・教育歴）
- D. 学校・学級の状況
- E. 学力（国語・算数・その他）
- F. 行動、社会性
- G. 言語・コミュニケーション
- H. 諸検査の結果
- I. 感覚・運動・基本的生活習慣
- J. 身体・医学面
- K. 興味・強い面・指導に利用できるもの
- L. 校内体制・支援リソース

行動には意味がある

行動分析



各種検査から分かること

「できる」「できない」ではなく、「どこにつまずきがあるのか」「何に困っているのか」という本人の認知処理の状態をアセスメントすることで、具体的な手立てを講じることができるようになる。

- 「継次処理」や「同時処理」
- 「視覚処理」や「聴覚処理」
- 「短期記憶」や「長期記憶」
など

京極小学校で実態把握に用いる検査

相談があったお子さん全員に
WISC-V 知能検査

教育相談や行動観察の結果、必要だと感じた場合
PVT-R 絵画語い発達検査
STRAW-R 改訂版 標準読み書きスクリーニング検査
URAWSS II
DTVP フロスティック視知覚発達検査
など

誤り分析

～日常のテストやプリントから～

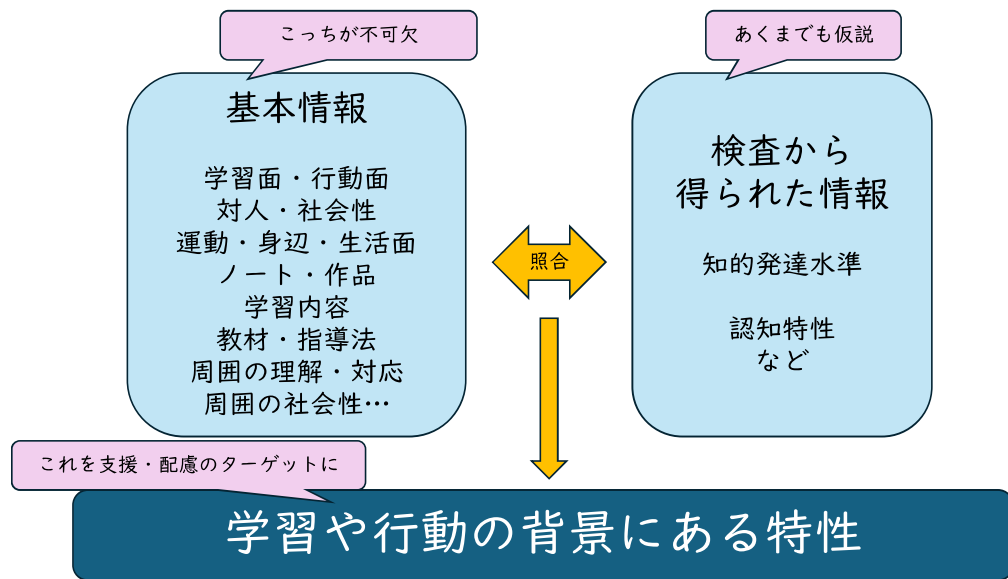
日記や作文・計算・テスト等から、その子の誤りを抽出して、その傾向から支援の方向性を見つけていく

計算の誤り分析

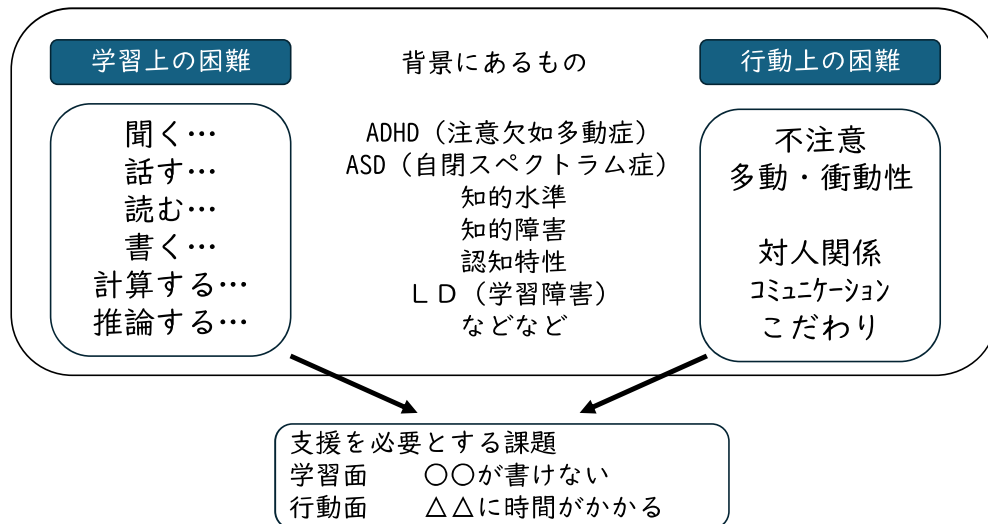
$$\begin{array}{r} 23 \\ \times 45 \\ \hline 115 \\ 92 \\ \hline 207 \end{array}$$

$$\begin{array}{r} 17 \\ \times 3 \\ \hline 42 \end{array}$$

村井敏宏・山田充 著
学びにくい子への「国語・算数」つまずきサポート
明治図書



特性を把握し 長期目標と短期目標を立てる



長期目標から考える

支援を必要とする課題：漢字が正しく書けない

長期目標
1年後
達成したい目標

学年で学習する漢字の○割以上正しい字を書く事ができる。

1年後の姿の想像し、そこから、1学期の終わりの姿を逆算する。

短期目標
少し長いスパン
(例：1学期)

漢字の小テストで
○割以上正しい字を書く事ができる。

目標は評価できる
書き方で

短期目標から考える

支援を必要とする課題：漢字が正しく書けない

明日の指導を仮定し目標を考えてみる。

→ △という字を正しく書くことができる。



短期目標
少し長いスパン
(例：1学期)

漢字の小テストで
○割以上正しい字を書く事ができる。



短期目標の積み重ねの結果達成できる目標

長期目標
1年後
達成したい目標

学年で学習する漢字の○割以上正しい
字を書く事ができる。

目標は評価できる
書き方で

それぞれの場での支援

通常の学級

一斉授業
集団での学び合い
支援員の活用

全体への配慮
個別への配慮

家庭

日常場面

学校との連携

かかわり

通級指導教室

個別指導
グループ指導

個別への支援

京極小学校では

京極小学校での通級指導開始までの流れ

- ①子ども・保護者・担任の気づき
- ②教育相談・行動観察
- ③諸検査・チェックシートなど
- ④基本情報と検査情報との照合
- ⑤通級指導教室担当者で支援の方針の検討
- ⑥校内委員会で支援の方針の検討
- ⑦保護者への説明

担任の先生を含め、その子に関わる先生方に特性を知ってもらい、その子にあった支援を提案する。

通常の学級との連携

- 子どもが一番困っている場面は
→主に教室
- 担任の先生との連携が重要
教室での様子や困難さなど
→放課後に担任の先生と「最近、通級ではこんな様子ですよ。教室ではどうですか」
- 子どもの認知特性や課題、支援方法の共有のためにも、教育相談に担任の先生の参加を！

指導事例

Aさん（1年生）

- 学校の作文発表の場面で、自分で書いた作文を流暢に読むことができなかった。
- 教科書の読みもたどたどしく、担任の先生は、Aさんの困難さに気付いていた。
- 読むことに一生懸命で、内容理解を理解することが難しい。
- 保護者は読みが苦手だと思っていたが、それほど気にしていなかった。

Aさんの読みの困難さの背景

- WISC-IV知能検査とSTRAW-Rを実施。
 - 音読の困難さは、とても高い。
 - 文字列を単語のまとまりとして認識することが苦手。
-

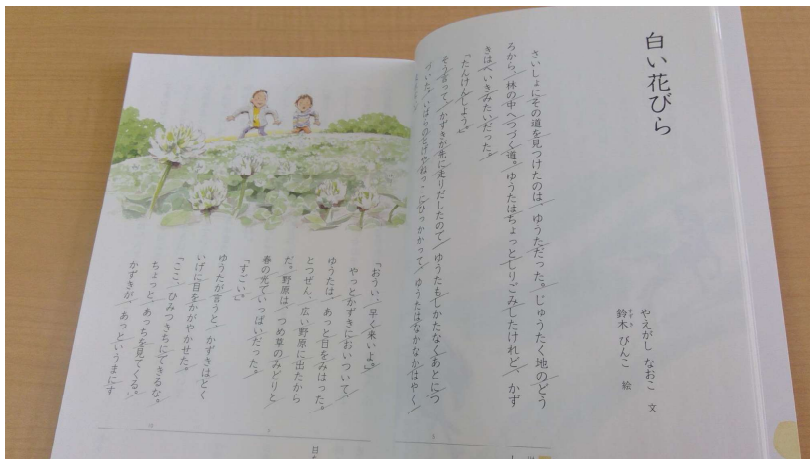
学級での配慮・支援

- ①音読の練習では、はじめに先生が範読する。
- ②国語の音読では、一斉音読をはじめにおこなう。
(周りの音を聞いて読みを確認できるようにする。)
- ③テストなどでは、必要に応じて読みの支援をする。

保護者の協力

- ①国語の教科書に、文節単位に分かち書きを入れる。
- ②家でも音読に取り組む。余裕があれば、新しい単元に入る前に、読み聞かせをする。

保護者の協力



↑保護者の方が手作りしてくれた、段ボールのスリット

通級指導教室では

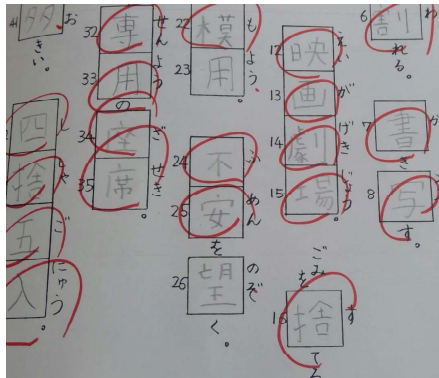
- ①言葉をまとまりで捉える。
- ②短い文章を音読して、読み取りをする。
- ③教科書の追い読みをして、教室で自信を持って音読できるようにする。



読みのアセスメント・指導パッケージ 海津亜希子 Gakken

家庭欄		
家庭欄		国語の音読も最近ではスラスラと読んでいるので 本人もうれしそうにしています。
次回の予定		曜日 時間目

漢字でつまずくBさん（6年生）



- ・漢字そのものはあまり苦手ではないものの、読み方が同じ別の漢字を書いてしまう。

文字と意味のマッチングに課題がある

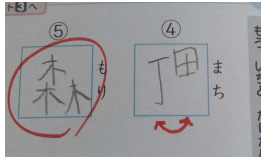
イラストを使って、文字を意味をマッチングする。



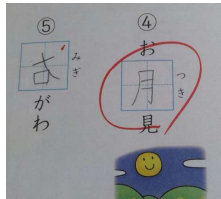
「漢字イラストカード」（かもがわ出版） 山田充



漢字でつまずくCさん（1年生）



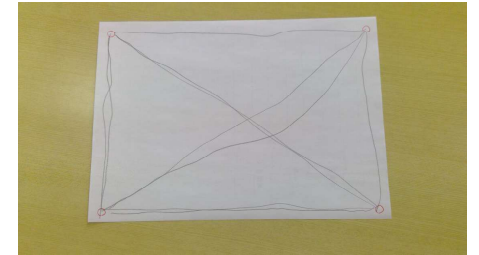
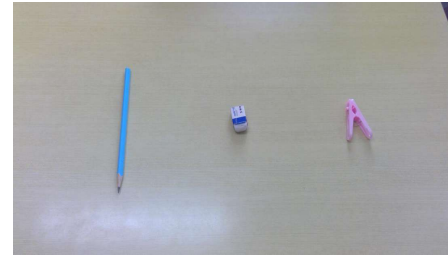
- ・漢字のへんにつくりが入れ替わったり、鏡文字になったりする。
- ・ひらがなやカタカナも鏡文字になることがある。



左右の認識の弱さが見られる。

通級指導教室では

左右認識のトレーニング



通常の学級では



黒板の上に、右と左を掲示してもらう

保護者の協力

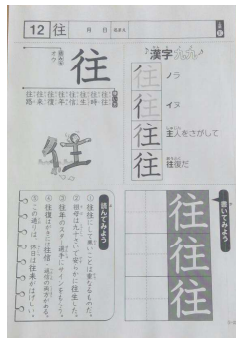
- ①「右・左」など、日常的に空間位置についての声かけややりとりを意図的に行う。

その他、漢字指導の教材

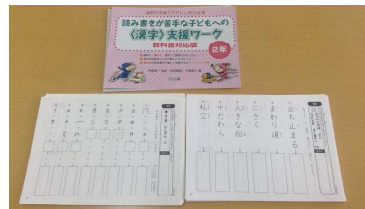
言語で視覚の弱さなどを
補助する教材



小学全漢字おぼえるカード
Gakken



特別支援の漢字教材
Gakken



読み書きが苦手な子どもへの
〈漢字〉支援ワーク
明治図書
竹田 契一 監修
村井 敏宏・中尾 和人 著

Dさん（3年生）

- 周りの友達が騒がしくなると、イライラする。
- 自分の思い通りにならないとイライラする。
- 失敗したり勝負に負けるとイライラする。
- イライラすると暴力や暴言につながる。
- 先生や友達との話の中で、相手の意図をうまく捉えることができない。
- 教室を飛び出し、学校外に出ることもある。
- 夜に寝られていないので学校で眠そう。

Dさんの行動の背景

- 医療機関から自閉スペクトラム症の診断を受けている。
- 言葉の表面的な受け止めや理解
- こだわりの強さ

学級での配慮・支援 学校としての対応

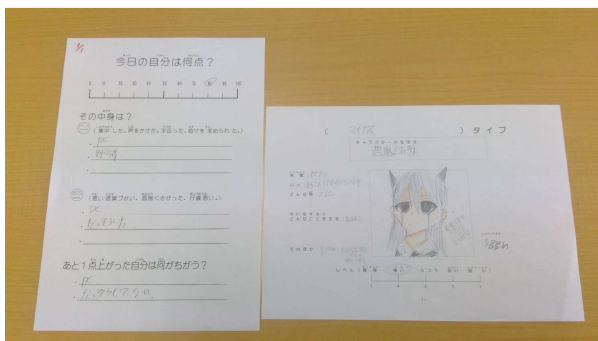
- ① 見通しをもって行動できるよう、事前にどのような活動なのか、いつまで頑張れば良いのかなどを伝える。
- ② イラッとしてしまったときに、場所を変えてクールダウンできるような場所、方法の設定。
- ③ 教室から飛び出してしまったとき、職員室にいる教職員で対応できるように準備。
- ④ スクールカウンセラーとの連携。

保護者の協力

- ①医療機関の受診やスクールカウンセラーの利用
- ②家での生活リズムを整える。

通級指導教室では

- ①気持ちの安定を図る。
- ②現在の自分の気持ちを見つめる。
- ③イラッとしてしまったときの対処法を練習する。
- ④自分の行動をふり返る。
- ⑤頑張っていることを評価する。



←自分研究

自分の気持ちをキャラクター化し、いつどんな気持ちになるのか、どうすれば気持ちが切りかわるのかなど、考える。

↑今日の自分は何点？
一日の自分の行動をふり返る。
あと1点あげるためにはどうすれば良いかを考える

→トークンエコノミー

目標を設定し、達成できたらシールを貼る。
シールが10枚たまると、お楽しみの時間が
増える



終わりに

すぐ、相談に乗る・対応
する・フォローする

これからの 通級指導教室の役割

通常の学級のセーフティーネット

通級指導教室は

▶安心できる場所

そのためにも、困難さの背景を把握し
根拠に基づいた支援・指導を！！

▶自分に合った方法で学習できる場所



ご静聴、
ありがとうございました。



京極町立京極小学校
通級指導教室
ことばとまなび